

「食」に関する将来ビジョン検討本部（第7回）議事概要

1. 日 時：平成24年7月19日（木）16:02～16:56
2. 場 所：農林水産省 第2特別会議室
3. 出席者：森本農林水産大臣政務官、園田内閣府大臣政務官、稲見総務大臣政務官、中野外務大臣政務官、神本文部科学大臣政務官、藤田厚生労働大臣政務官、中根経済産業大臣政務官、（以下代理出席）財務省：山越大臣官房審議官、国土交通省：小林大臣官房審議官

○森本農林水産大臣政務官（開会・冒頭挨拶）

- ・食ビジョンの改訂について、5月の検討本部、6月の有識者ヒアリングを通じて、またいくつかの府省と政務官同士で直接ご議論させて頂き、「食ビジョンの加速化について（案）」をとりまとめたので、ご議論を頂きたい。

○中根経済産業大臣政務官

- ・経済産業省としては、食ビジョンの加速化について、2次産業のものづくり技術や3次産業のネットワーク等を活用することで、農業の成長産業化に貢献できる。
- ・具体的な取組としては、陸前高田市で植物工場の実証支援を行うとともに、クールジャパンにおいてアメリカ・シンガポールでの食関係のアンテナショップの支援をしており、震災以降低下している日本の食の信用回復、海外展開の推進に努めている。
- ・生ごみ発酵バイオマス発電、木材チップバイオマス発電というのを視察したが、ゴミを集める回収ネットワークの構築が大事であり、食品ロスの利用で発電につながるという観点からの食育というのものもあるのではないかな。
- ・食ビジョンの加速を確実なものにしていくため、農水省は各府省と密接に調整をしていただきたい。

○中野外務大臣政務官

- ・プロジェクト3は外務省が強みを発揮できるところと認識している。外交青書で「國酒」の取組を紹介しているように、東北の経済復興として在外公館や日本での行事等において積極的な利用などを行っている。
- ・今年2月に北京、香港、上海で、復興状況についてPRを実施した。東北を中心とした日本酒のPRや仏大使館でのPRなど、発信力を高めていきたい。
- ・また、風評被害対策についても外交青書に掲載しているように、積極的に取り組んでいる。農産物の輸出のため、様々な機会を捉えて輸入規制の緩和を働きかけていきたい。
- ・不測時の食料安全保障マニュアルは、実効性のあるものに見直していくことが必要。
- ・プロジェクト2について、食文化のユネスコ無形文化遺産登録実現に向け、外務省としても食文化の広報をやっていきたい。

○稲見総務大臣政務官

- ・総務省としてということではないが、学校給食は子供の食にとって重要であり、学校給食における地域の努力が、食育にも良い影響を与えるのではないかな。

○財務省 山越大臣官房審議官

- ・財務省は酒類を所管しており、風評被害なども確認しながら海外展開を進めていきたいと思っている。プロジェクト3の関係になると思うが、各省とも連携して行っていきたい。

○園田内閣府大臣政務官

- ・食育ガイド、食生活指針の改正検討について盛り込んでもらい感謝している。内閣府としても協力してやっていきたい。
- ・農水省の行政事業レビューで食育関連事業について、各府省がバラバラに取り組んでいるのではないかと指摘があった。食育は内閣府を中心に関係府省が連携して実施しており、それぞれ異なったアプローチでやっている。しかし、それが国民に十分に伝えきれていない部分があるとも考えられるので、内閣府がきっちりと整理し調整機能を発揮して、関係府省と連携してやっていきたい。

○藤田厚生労働大臣政務官

- ・森本政務官が来られた際、特に漢方（生薬）の話、農作業の健康への効果、食育などについて話があり、厚生労働省としてしっかり受け止めたところ。
- ・食育関連では、先週「健康日本21（第2次）」を公表した。この中では「身体活動・運動の目標」を掲げたが、余暇活動としての市民農園での活動は、国民にとって親しみやすいものであり、今後の検証に期待しているところ。
- ・また歯科保健分野では、「嚙ミング30運動」というのがあり、こういったもので食育を食ビジョンとリンクさせながらやっていきたい。
- ・ASEAN＋日中韓の保健大臣会合に出席した。休憩時間に各国大臣と話しをしたら、日本食への関心が大変高いと伺った。食文化、食の伝統を生かしていくことが大事と認識した。

○神本文部科学大臣政務官

- ・廃校施設は、都市農村交流の拠点として、地場産物を活用したメニュー開発や環境教育などに活用している事例がある。これらの紹介を通じて有効活用を進めていきたい。
- ・キャリア教育については、学校と地域社会、産業界の連携を強化することが重要である。学校側が望んでいる支援と、地域社会や産業界が提供できる支援とをマッチングするポータルサイトを作ったので活用を促してほしい。
- ・日本食文化のユネスコ無形文化遺産登録については、3月にユネスコに提案書を提出しており、最短で来年秋の政府間委員会で記載の可否が審議される予定である。
- ・食文化の次世代への継承のため、学校給食で地域の食文化を学ぶ観点から地場産物や郷土料理を出しているような事例もある。
- ・文科省としても加速化に向け、地域社会との連携の中で子供への食育、職場体験などを通じて食・農の後継者育成に連携して取り組みたい。

○森本農林水産大臣政務官

- ・頂いた御意見については加速化（案）に反映させたい。最終版については、私に一任願いたい。事務方を通じて各政務官にご確認を頂き、7月下旬を目途に公表したい。
- ・各プロジェクトの取組の具体化にあたっては、地域の声を十分に聴き、地域に根差したものとしたい。
- ・今回のとりまとめは方向性を示すものであり、12月の予算概算決定に合わせて、具体的な取組・施策を整理し、食ビジョンを改訂していきたい。

（ 以 上 ）